

## 江戸川水閘門 アユ遡上増加へ明るい展望

2008年2月5日

日本一のアユを取り戻す会では、天然遡上アユの増加を目的に、江戸川水閘門や利根大堰におけるアユの円滑な遡上および降下を関係機関に働きかけてきました。

アユの生態的には利根川の最下流部である江戸川水閘門における動向を、国の業務委託状況を参考にして紹介します。

委託名	概要	工期	金額(千円)
平成19年度 江戸川水閘門魚類遡上検討業務	江戸川における魚類の遡上状況の把握、江戸川水閘門における水門操作の影響と水閘門に設置する改善対策工の効果および水理機能の検証を行う。(現計画の特定構造物改築事業により魚道は設置予定であるが、それまでの間、魚類の遡上環境を改善する対応が必要である。)	平成19年4月から 平成19年9月	13,650
平成19年度 江戸川水閘門改築検討業務	江戸川水閘門について、現状の課題を整理し、改築の必要性・今後の方針等について検討し、あわせて江戸川水閘門を含めた旧江戸川分派周辺の整備手法について検討を行う。	平成19年11月から 平成20年3月	19,792
H19 江戸川水閘門魚類遡上調査検討業務	江戸川における魚類遡上状況の把握及び遡上環境改善対策工効果調査を行い、江戸川水閘門における魚類遡上環境改善対策工の検討および対策事業効果手法の検討を行う。	平成19年12月から 平成21年9月	40,425

### 【表から想定される内容】

- 1) 本格的な遡上調査が着手された。
- 2) 本格的な魚道の設置までの期間における遡上対策が検討され、効果調査および対策工の検討が行われる。
- 3) 水閘門及び周辺施設の改築が検討される。

以上より、江戸川水閘門検討が本格化しアユの遡上環境の改善に明るい展望が開けてきたと言えるのではないのでしょうか。中流における利根大堰でも“アユに優しい運用”を実施中であり、私達の活動も一定の成果を上げてきています。

(日本一のアユを取り戻す会：福田睦夫)